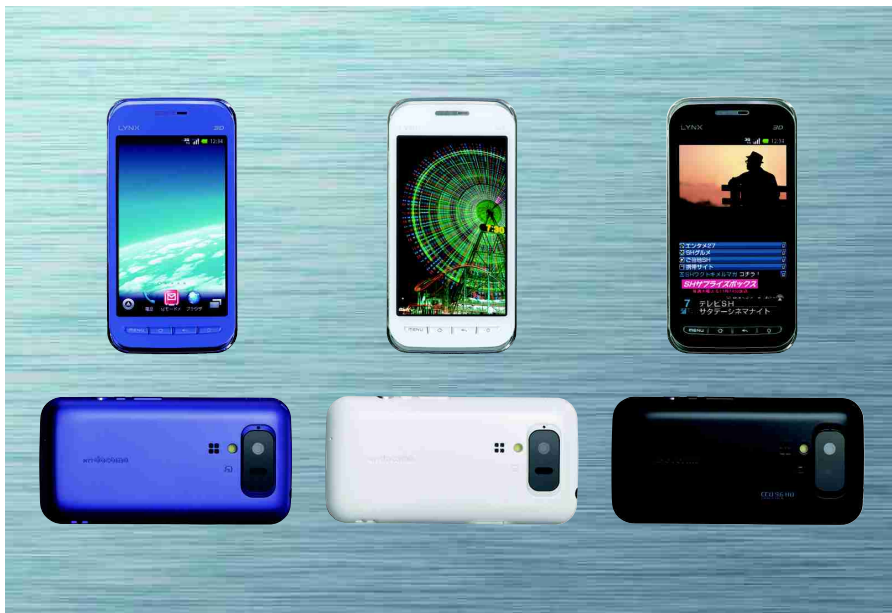


3Dタッチパネルスマートフォン ドコモ スマートフォン LYNX 3D SH-03C



開発者より



(左から)
通信システム事業本部
パーソナル通信第1事業部
商品企画部 岡安 昌利
第1ソフト開発部 久保 修二

LYNX 3D SH-03Cは、Android OSを採用し、1台目として従来のケータイの定番機能を搭載したNTTドコモ様向けのスマートフォンです。専用メガネ無しで楽しめる「3D液晶」を搭載した当社ならではのスマートフォンとして業界に先駆けて商品化しました。

本機は、専用メガネ無しで3D^{※1}を楽しめるタッチパネル対応の約3.8インチ大画面液晶を搭載し、映像やゲームなど迫力ある3Dを手軽に楽しめます。また、AndroidTM 2.1^{※2}搭載のスマートフォンに「おサイフケータイ[®]」やワンセグ、赤外線通信など便利な携帯電話の定番機能を搭載したほか、iモード[®]のメールアドレスが利用できる「spモードTM」にも対応しており、スマートフォンの高いカスタマイズ性と携帯電話の充実した基本機能を両立しました。

また、ハイビジョン動画や高画質な静止画撮影が可能なCCD 960万画素カメラと、画像処理エンジン「ProPix」を搭載しているほか、3D写真撮影機能や「チェイスフォーカス」、顔検出や「シーン自動認識」など多彩なカメラ機能を採用しました。

※1 3D映像の見え方には個人差があります。

※2 2011年春、バージョンアップ予定(2.1→2.2)

タッチパネル対応、3.8インチ 3D液晶

3D表示に対応した高精細のNewモバイルASV液晶を採用しました。専用メガネをかける必要がなく、縦画面・横画面のどちらでも3D表示が可能となり、3D対応ゲームや3D動画、3D静止画などいろいろなコンテンツで楽しめます。

静止画カンタン3D変換／3D 表示再生

3Dを手軽に楽しんで頂く機能として、2Dの写真を簡単に3Dに変換して表示する機能や、3Dの効果がよくわかるプリインストールデータを多数用意しました。コンテンツは表示中に簡単に2Dと3Dの切り替えができます。

3D写真撮影

CCD960万画素カメラを採用し、多彩なカメラ機能を搭載しています。被写体を2回撮影することで3D写真を撮影する機能を持っており、3Dの楽しさを広げます。

タッチパネル対応, 3.8インチ3D液晶

薄型・小型のタッチパネル一体構造でありながら、2D表示も3D表示も美しく再現、専用のメガネが不要な「視差バリア方式」で、手軽に3Dが楽しめます。

※視差バリア方式 通常のディスプレイに「視差バリア」と呼ばれる縦縞のバリアを重ねることで、右眼には右眼用の映像を、左目には左目用の映像を見せ、立体感を表現します (図1)。

※人は左眼と右眼で、少しずつ角度がずれた状態でもものを見て、立体感を認識しています (図2)。

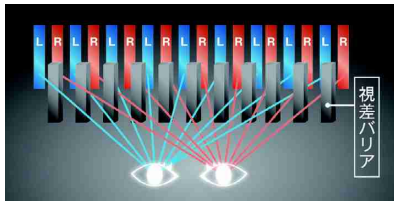


図1 視差バリア方式

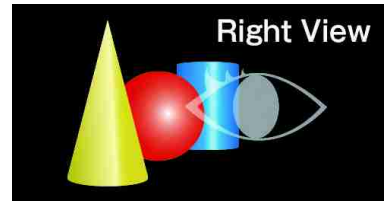
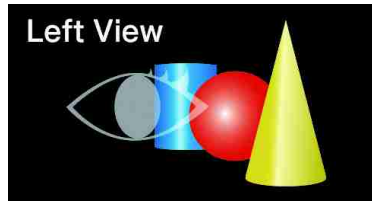


図2

静止画カンタン3D変換／3D表示再生



図3

静止画を撮影後、メニューから「3D変換」を選択

「3D」「3D／2D」マーク付きのデータは静止画でも動画でもすぐに3Dを表示。

3D表示中にタッチ操作で、2Dと3Dの表示切り替えも行えます (図4)。

2Dで撮った写真をカンタンに3Dに変換。撮影した静止画を解析して、3D画像をその場で自動生成。撮影してすぐに3D表示に変換して楽しめます (図3)。

※WVGAサイズより大きいファイルは、待受けサイズリサイズが必要です。

※画面のイメージ写真等は3D機能を説明するためのもので、実際の画像ではありません。



観たいデータを選ぶ



すぐに3D表示、3D再生を開始します

図4

3D写真撮影

カメラをスライドしながら撮影することで、右目用画像と左目用画像を撮影し、自動で3D静止画に合成します。プレビュー画面で3D具合を確認することもできます (図5)。



シャッターを押して左眼用画像を撮影



右にスライドすると右眼用画像を撮影



2つの画像を合成して3D静止画完成

図5

※画面のイメージ写真等は3D機能を説明するためのもので、実際の画像ではありません。

- 「Android」は、Google Inc.の商標または登録商標です。
- 「おサイフケータイ」「iモード」「spモード」は、NTTドコモ株式会社の登録商標です。

本記事は2010年12月に当社ホームページに掲載したものです。